

二一七二

			二〇四六	和書門
四〇七八	四	函	號	類

二〇四六	和書
四〇七八	函
四	冊
七	架

內閣文庫	
番號	和 20464
冊數	40(23)
函號	167 62

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



太平記卷第二十三

大森彦七事

曆^{リヤク}癸卯年乃^ニ春のある^ニ伊^イ予^ヨら^ヨ國^{クニ}より飛^ヒ御^ミ利^リ系^{ケイ}して
 あり^ニづの^ニ酒^{サケ}を^シあり^ニを^シぬ^ニと^シあ^ニ為^ニま^ニけ^ニ當^ニ國^{クニ}の^ニ臣^シ人^ト
 大^{オホ}き^ニり^ニ乃^ニ彦^ノ七^シ邊^ノ長^トと^シり^ニふ^ニま^ニの^ニあり^ニを^シふ^ニあ^ニく^ニ色^ト
 ふ^ニて^ニき^ニあ^ニり^ニて^ニカ^ニよ^ニの^ニ常^ト比^ト人^ト小^コ正^{マサ}と^シる^ニま^ニさ^ニり^ニ滅^メ小^コ
 血^{ケツキ}氣^キ乃^ニ勇^{ユウ}者^トと^シり^ニひ^ニは^ニは^ニへ^ニと^シ去^サ建^{ケン}武^ブ三^{サン}年^{ネン}一^{イツ}月^{ゲツ}一^{イツ}
 日^{ニチ}乃^ニ列^{レツ}乃^ニり^ニせ^ニあ^ニの^ニあり^ニ給^ニひ^ニ一^{イツ}時^{トキ}新^{シン}田^{テン}義^ギ貞^{テイ}共^{キョウ}
 乃^ニ一^{イツ}ぞ^ニく^ニと^シ毛^{モウ}相^{ソウ}川^{ケン}心^{シン}律^{リツ}師^シ定^{テイ}祿^{ロク}一^{イツ}乃^ニ乃^ニく^ニ乃^ニり^ニて^ニ是^ト

軍とし極正殿小まう城切草一者ありまきけを
勤切他小しくるりとて救ヶ雨のあんきう城治
りりてぎりびらうらひ小むこりて一旗在極こ
の極高とほくしりくまけいききうが極来い
あまかまい三年のまうなれもとて他裳れ極小
さんあきと打て舞臺とあ極この風流とあうん
と守あうりのき職こまをうてうんどゆらま
おびこしき士をさうりゆくれるりきれを
極この志やうぞく度下人よりうせてぐくやへ行
うらうが山あひのりを乃と極極よ通う小年け箱

十七八けするら女房の赤さうら極小柳うらの又
まねきそむん保くそまあらうがうおあう山此
こ乃月よあいトて共ひりあくすまありき七
あまを忍てきとどの田舎るどよかやうれ女
房のまるうとけりゆくよりう茶らん又りうら
さんあきへう初らんと思居うまれば女房き七
小立句ひてうりあまの竊くらふる人えあ
ゆくるさあしを推小とけまうとてうりあまを
うらあり極りあうあうあうあうあうあうあう
すくりあうあうとあきまをねんき七あや

かろうんとみせりさうぐくをそふあうたるり
きく樹もろりるる海ふ小志やうぞく此うり
箱さう志り物二三百葉より海人のあまたく
いさり央ううあひ小とをすむる央うしく見まは
そまゆはあうぞ一村立うらうら雲乃中ふさ
の興を切さほろ祿をそろしげるる器形キキヤクの者た
おぼた右小つろりるるそゆ小久くよらうふ
あう共百務りしり細るよら門ども城くませく
供事あうりチカをくさり志よりそろりあ見くは
黒雲乃中シメ小いあびかり樹く志て見物居居るる

とひやとあ小雲乃中よりカラセシ志小大さり志七友
小Pるる事一もそ楠正サシ燃来してゆ也とぞあだ
りりきる志七かやうるるよう門くおそれね
者るりけまはらりとをゆくせは人死志く二さび
ゆら事一も一定てそらんく此まいさとなり
まらめくぞあらんそまあう一何ゆくをあま楠
あひ何事一乃用もて今あふきんじてモリ盛名とな
よび給ふぞと一人と捕りきらい正ヒデゴ蔵存命の昌
頼くの保とめぐる一てお控入るの一ケ家としこ
あけて先帝の志んさんテイとやせめまのうせそ下

り人住ぬふまゝとてび物とどののくちりてをとれ
あしく老りしうり海上らうり小とび去サリ小多り
見物乃其職シ是と見して只今天へひきさけられて
わが家うとくも海志ぬを才小そを福を子ハ
親とよび親ハ子乃手と引くは角カシ八方へあげ去
きう間又今教乃さうりわくを二三番めく殿を小
タリを後日五日成程く毎一通りありておせ
とさまゝ一息吹さらきいまびかり樹くしをれん
盛長今教何物件モノのむけ物事りねとあがゆ殿を
約ヒキもやと思ふ也とて中門よあきけあてらるひ

一端ヒトヘし二両どうり乃大ら小中さうあまゝとねき
ちしはなわづりてむけ物とそしとそせうら
うけうら衆アヒ乃ししく教事シるる箱ホトよさうそらまよ
るうりつう中門シラの月ニカ城ニカよあきらりりてらる雲クモ
一村ムラうらあがつり雲乃中ナカ小く急きていう小大
きりぬいも小あうわうり先サキ方カタ終ハヤシられし銀ギンと
急イソきまのうせしまひへとて輪ワ首カビと成ナリされてひ
間マ勅ツク使シ小正サダ殿ノ又マタ吾ガ向ムカくゆいとひをまはき去サ士
守モリえあ人ヒト寸ツバ庭ニへ立タ出デく今教ハ定サめて事コトり給タマひ
ぬんと存ゾクて書カキし申マウ約ヒキ事コトてしを作ツク人ヒトとてあハ

何ふたなきてんぐどげ物さどの地しての事
ぞと存せし同業お乃同答おも乃ひひいさりさ
りまうう小倫有とらんーあらぞと取しん
むさてハ子おる此極あゆく清産いかりと伝を
ぬくしそ作人奉一去くおやうよふたふあんの
奉一と之誠為あゆくい先おともあふ人救あり
ぞふ思しひい推人よては海り作ぞは意あ六道
望生乃圃りあらん所小ひまされておもーまはそと
とひきまけそ時正機庭あるらまりのうり此柳
のこよ急よをことらうりて甲けらハ正機がね

とをるふ人ハ中れまハ正機廻て宣共部心親王
新田元中乃義貞平馬助忠政九帝大吏判あ義経
能定あ義経正機をくそへて七人なりそおらん
くく乃ともがううらん小うく海まはとぞ治り
けつ盤去ううのて甲けらあうて初先帝ありけり
皇ふ由産いぞ又あひあさづひまらん人こりうらん
まうこよておんまらんぞとと人む正機こらん
曰先朝ハ元来由りあゆらまうのあよるんよて
由産ハ今還く秋果の六天よ由産ありあひあさ
うひまらん人こる意ーわらのきんぞくとるりて

わらぬ樹い天帝テイとくうめひ我時人君よ下て志ん
いぐうドやう乃人の心よ入かきんさて此處ココか
りつ成もくこめくおとくわらとと人む正成某シカシ
もさるごめわく移んよ引きてざん志やう保ホり
あうけ今イマ子コ彌ミ王ワウ魁ケイと成と七頭シツの半ハミ小コ家カまらふ
あんのうけはそわり後と見せんとしてあひまんと
十ジュウは又同時小コまんとありあげうんそひわりよ
付てこらう成ハカ遠エン小コ見ミあげをれむ一村イツうらうら
雲クモの中ナカ小コ十二ジュウニ人の魁ケイたう海ウミ北キタ由ユ興キョウとわきさうけ
うりそ次ツギよけ長チヤウ邦ホウ心シン親シン王ワウ八ハチ訪ホウよ車クルマとくけてこ

あうし終ふ新田丸中均義キヨシ魁ケイい三サン子コ余ヨ務ム少ショウと先
陳チン小コすくみ九ク房ホウ大ダイ吏シ判パン右ウ義ギ經キョウいひこりやと救ス
百ヒャク務ムあく後ゴ陳チンようくらを初ハツに能ノウ定テイ吉キチのり經
三百ソウ余ヨ艘ソウ乃ノ兵ヘイ船センと雲クモの波ナミよとうのり人ヒト終ハシへし
平ヘイる助タケ忠チウ政セイ赤セキと一イツ條ジョウうあげく是コノも後ゴ陣ジンよ
ひえうり又マタこくうらうらう小コ引ヒキさうりて捕ツカ正セイ成
みあつ河カハまで合カヒ戦センの時トキ乃ノく小コちとまううり
うん地チ中ナカまきの獲トクひうれよ黒クロやうのりよとさそ
彌ミの七シチ川カハあり半ハミすそ家カありをらげ外ホウ保ボえ平ヘイ治チ
小コ村ムラまじ者モノ治チ取セ貴キ和ワのうめひ小コ滅ヘツし源ゲン平ヘイ家カ

乃案^{トモカラ}とさ^シ以^テ充^テ弘^シ建^シ武^ム小^シや^ルひ^ト一^ト共^ニ友^人よ^ク
ま^ニ名^ヲと^リあ^リり^ノ兵^糧の^者を^皆甲^冑と^對し^ラ兵^と
が^人て^おら^う十^里計^ガ間^小と^記ま^もる^く
ぞ^思く^らり^きら^びを^振う^て盛^長が^まが^らう^一小
の^と思^ひて^地人^ノの^目ゆ^けは^思く^らり^きら^るを
尤^ナと^うり^てあ^まと^は思^わら^うとい^つん^と
と^まは^忽と^風よ^あら^うふ^雲の^一と^くぞ^んく
と^して^さら^うせ^小を^り只^捕が^捕り^ふ勢^とら^り
ぞ^おき^らを^りと^是糧^乃あ^らう^と思^つま^たそ^ん
程^をう^ごの^寸一^之の^船よ^{あり}を^花ら^んは^いと

とい^つり^ふ察^百慚^るん^ぞ申^らう^くり^うも^ん
と^らひ^りら^る第六^天の^まら^うた^があ^らり^ふは
ば^カと^はま^のう^すま^がさ^めと^は然^ん倒^のの^子れ
う^うと^ぬま^がし^くく^るら^精首^給と^えせん^あ
ま^く西^くに^ぬり^んば^カと^は均^軍へ^まの^うせ^は
り^んと^らそ^とり^ひ控^て盛^長へ^内へ^入小^りり^正
勝^大小^あが^さら^うひ^てこの^國あ^らう^は陸^地よ^はら^う
なり^うら^たら^しは^あら^うと^成す^まが^ゆて
海上^とと^成る^ゆけ^やら^うゆ^めく^らゆ^ゆき
その^城と^同書^ふと^らう^らひ^はく^あと^うて

どとび去よけりきなほより盛衣袖くらハお成シラく
山ともし里あ城とくかきやび時ありそり
ぬき矢張はな川事一ニ回なりけり一ニ回一ニ回たね
お開りて盛衣城一回なりぬきをくこめてら矢
矢チ投とくいあくけいこの神イまでぞ居イたりきり
あり教又毎風一あきり通トりていさびりの教カ
あきり也きれたすもや例レの楠ノそ来まともや
しびおふあんのくくまらながい祿ルある枕マの
きうじとゆえとくをスぞりて救ス千人打チ入トきし
かりきいこのまのたぬきあもてくそりた刀カ比

さやとを門ノして教討入リたりとくぬく教ハリ
くありありと見れた文ウさきこあいうふと思
およとんどやうより然シ乃ハのくく城ケ毛カおひ
てあきまどうおろきて盛衣カぐりとりとね
え中よけりけりふの口よりいづんとすきり衣
中よけられあう件シの刀をぬきてだけ袖カの
まく中と三刀さうりきまはさうまてちと
よりりうう神イは見えけりむきとひきくもて
しふよりひろむさうのきれよふあらびおち
あきなりはけりさうひて七刀まてぞ招サたりきり

どけ物さう取どさうしてきてや宵きんりさのきさ
よりまりの珠るる物ふ川とわけ安くこくうと
さうしてぞあがりけのきいごの志たけも一珠
さうさのさのう人よのありて思まは一の半れ
頼ありきい何粒捕りのりううう然ら寸い
まうぬあわの屋どきうさのうとてばう一の次
と中門のううらまゆひ付て蓋うまは終終あり
まうめきいてうごきう回おらぶさうて別水屋のぞ
ま川め々るま次の靴を月らりり風急まくあや
トき氣笑ふんききまはけいごの者た大務と試

本

侍ふるま居てよもさうう移ふらどとごきい六
とうりてぞあそひきう靴穿るるわく小上下百
余人ま々うけいごのまの左同時小あ川とりひ
きんが皆滴ふる人おまのくあとく殿とくうべ
とうなるまきと移り居たりを座中小禪信一人
縁あうでまきうがらり一央の影より思まはた
るうまぐも一付らん志やうう里はる里て縁りり
あう人の上とよひありまそ又天井へぞあうり
きんをほきり長殿よゆあまきくゆうりとりふ
まう小人と引くまうう祈小思きて上げ下すそ

わーきううなりわせんよや腰きんよれや者在
とよびきんをそだん小郡フシきんをたおきあうらん
とすうよ我いもうらんよもととりをゆひ付られ
或い人のまを日る遊よゆひ合せうきん共あま
小町くまう魚イサ乃あつく也は釋僧シヤウのまりのゆ
ぶさふらう一重きん見まげさう一を強切カラキキのまのた
まのうるうらを乃ゆ小は足とほまうまて文小
まさらまゆさうりたりされとも盛ミ名づけ物とけ
あておさう人あうぞ也とりらてよれとPきんを
きいこの者在魁角トコウ一とおさあがりらんそくと

とりのておらふ小盛ミ名うおさう人あうひびいとまら
あぢんとじくめさききん徳人トクよよは城シロかうゆて
あうさうとをすやくとよ大るうりうけのりり
お書フしてまぢんふらさけよたりまはまとのけ
て是城見まげされうら死人シのけうべみきんの
あうまよりらさけてぞ跡りきんをりも大りき
城つきてあう一んとあめてさうとさざりて
見まげらやけまけ物よりどとらまうや計ぞ跡
小うらまをまをりも我まを小けらま思キり
とああわとらまを今あいう小うけを思キり

のあふまじく我命イシチのまひまのく救カスなす守均軍此
他運シりくとりけきて文と書シしるういどありし
てとなくとつらひきかてやまのうり人集ミツク才
乃色シよづらてそひけつうくして熱が少けてる物
の月中門よこへ入あふふとこれと書を備シき上
て夜と足割ニくうまはをより迷テのくくする物
老りて叢シカの中へぞあちありけるふやうん
ともく中あくと足まはさるシ小盛シとよとくくく
まはる首のシカおまはるうりよ件シの刃自シわけてさや
はまてはさつうぬきてそ落フチうりきうあういど也

とりふ色とろそつらつり厚くくは頼カスとおきく央小
るげ入シまははせりおきうと登カもさうとめく焼ヤキ
くごきそとぞとてうりきうま志シありては盛シと
今いだけ物よも来らじとあがゆるをぬい捕グ
おとをるふ者といひしう我よ来奉シとそふ七
が也毛カまでとてそあうめと甲けまは法シ人滅シ小
えさあがゆと回シらとぞやてこくうふあまうま
考コまてよを七人よはのさうりゆりんとあざいし
ひぐりひをねてこまのふと丹シうらうさそ法シ人シ
滅シあがをねて夜ニるうらうらうらふまの由シ大シ

從りゆひてまのうらやとてうらひきききり
と忍る人あつとおひへく同財ゆぞ皆う成ま
きりか極乃どけ抱ハひき目の發よぶるり
毎敷墨成成ときてとのぬひきめを射させき
むこくうふどつととら極勢毎なる小天を
しきりさうげ陰陽師小門と射せうせよとて
と射せり門く小をせむ目めを忍るねまの
てふとぬく控きり圓射てありくも人きと
思

於きりフシテ小考七が縁者よ孫僧乃ありけりが
てりきりトコロを柝ノモりま現ゲとらぬ乃ウラ意イ意イともあみ
志ゆら乃きんぞくうりもと志月めん潔とわん
とら小大般若經ハシニヤキヤ成よび小くへうすを
狀シヤラと志ゆらと一ゆら中よりして合戦と
射と志ゆらと一ゆら中よりして合戦と射と
がうし乃あまのうら小射る志ゆら又縁射
志ゆみのしで現小意と手小日月とあざり足
小大海とあまのうらと三十三天れよ小
せめよとうひあやく乃右とをひ落し欲果れ

宿生と志我るよかふんと平ら時依天善律善法
堂小の用ありてまんじやと傳し終ふじ時ころう
より編製下とまんげきとあらしまのらのとを
がうとすくふさ記さうと忍くうりさまは志ゆ
みの三十三と早やうし終ふたいやくづふ
も我うみやね所中は法感とをてまらうと降伏
志終ふそりしとまんやうく地のがんぶとや法
とくくは法治とゆうとPをまはげ後滅
小終るしとて俄と傳宿と志うとてまんどくれ
大まんじやと日教六部とそよとうりけり滅

般あるうとく乃力よとてしむら感とうらむひ
きんじやみ月三日の書箱と守師言を此上少く
後白ののひうらるうしきん時より俄と天のき
らりりて雲上小車ととむらりるをとせちよ
る發やび時るし夫さきの戦鬪とと試すととい
西の下よりもまげくきんげき試まが梅光あ
めく星よしくるうもや人思る者を一人
てきも試ひやして必あ人里はうめひの考原と
て天をもまよとあうけ盤とら相記かんづくして
正滅がらんく海く着ぬを来ら守滅とかり

うてはたらんよや理志んとくらのりまよよそ
款軍り一感とそ人びとせし楠正殿がりうまい
志門まりよままはりさな刑部心義助大うらた
る助と始とちく土居の終よあちを我ハ株さ
れ或ハ服切くさきガしくり小たり滅する
うなと並乃らんぞく王仁玉理の切誣小よそ
ふ王と害とらるる中誠やめ我が朝の楠正殿も大
らんよやううとくらのげらあんよよて三どくと
海わらあくまとめありさ滅ふらんご國家此理
王里やく人氏乃あはるりまはむ刀とけ下下の

まのきんるまはとてあゆの泡をそ人て上境
小そあへあうけた長湯のうと直義朝は是誠足
治ひくる中実あうけ米世乃さどく何る中う是
小あくるるいとそう人と傳りる誠あく小竹徳と
同く志やうせんせうまきるとうや沙小う門を達
て幸久どんまんのあとくるりしび刀をり女が
ちう志ん小よそまう天の光誠かやう寸中
さなりし一奉りたるり

直義病悩小はわて上定直義書の奉り
志相小徳園乃ま方力中ううとて下民誣よ取し

と立^{タテ}られて八幡^{ハチマタ}文^{モン}小^コ一^{イチ}張^{シヤウ}の内^{ウチ}形^{カタ}書^{シヤウ}とくらあられ
て極^{キョク}く乃^ノは立^{タテ}形^{カタ}ありそししん小^コ曰^{イハレ}

教^{キョウ}白^{ハク}

形^{カタ}形^{カタ}事^{コト}

右^{ミダリ}神^{カミ}靈^{レイ}乃^ノの徳^{トク}一^{イチ}あり乃^ノの事^{コト}一^{イチ}民^{タミ}を安^{ヤス}じ國^{クニ}強^{ツヨク}
めさしひらと申^{モト}す王者^{オウゴ}乃^ノの政^{セイ}紀^キをやとすまは
切^{キリ}と責^{セマシ}し賢^{ケン}成^{セイ}とらとふと先^{サキ}と申^{モト}す小^コ丸^{マル}長^{チヤウ}勝^{シヤウ}の
うと源^{ゲン}直^{チキ}義^ギ乃^ノの徳^{トク}いさうげの良^{リヤウ}相^{サウ}ありのこふ也^{ナリ}
すもそふあううのきんひ川^{カハ}と志^シて海^{カイ}北^{キタ}あん
き備^{ヒト}よび人^{ヒト}が力^{チカラ}ふかきまはりこせんのさいせう
久^{キウ}くをうせん乃^ノの心^{ココロ}とすを養^{ヤウ}ひ悉^{シツ}たふり因^{イン}ひ

又^{マタ}子^シ乃^ノの一^{イチ}一^{イチ}而^ニあくとを月^{ツキ}の圓^{エン}宿^{シュク}勢^{セイ}おなをうして

葉^{エフ}石^{シタ}あらしと一^{イチ}一^{イチ}あふきあうさよやとさまはる

りゆうまうのゆうごよ也^{ナリ}どありそら病^{ビヤウ}源^{ゲン}北^{キタ}

るのゆとえんや仍^{ヨツテ}ん中^{ナカ}一^{イチ}小^コ而^ニ念^{ネン}もてべうせん

小^コまのさう一^{イチ}まると申^{モト}すいのりこふ神^{カミ}靈^{レイ}一^{イチ}とひ

がんとものんもすえをうせんもぞふあよあやれ

微^ミとねきんでうんさうよく息^{イキ}小^コひく極^{キョク}病^{ビヤウ}根^ネ連^{レン}よ

せうせは七日^{シツチ}の光^{ミツ}陰^{イン}とてんじ天^{テン}のせささういと

らとやし物^{モノ}法^{ホウ}の備^ヒ成^{セイ}ううさんせうめき勝^{シヤウ}北^{キタ}世^セ

成^{セイ}さん志^シのとんし伏^{フク}うふき神^{カミ}靈^{レイ}とあひさう

三治ふ文治フシチもらん乃ハカシ昔カクの合カク神テイと志ワスまは早ハヤく
理ケイ論リンあ全シ乃シ今イマのまマいイきキんンとトわワくク一イチ人ニン芸ゲイ林リン
ごうゴウ一イチ人ニン小コ盛セイ小コ一イチ人ニン華カ夏カ之シ門モン一イチ人ニン小コ一イチ人ニンこ
びヒとトぞゾんン教ケウ白ハク

曆リヤク意イ又マタ年ネン二ニ月ゲツ日ジツ

勅チヨク使シ勘カン由ユ由ユ長チヤウ官カン云クニ時トキ也ナリ形カタルシク書シテとトひヒくクきキてテ契ケイおオ小コ
ひヒぎギまマつツきキ海ウミとト流ナガレしてシテ高タカらラうウ小コもモ見ミあアげゲまマらラ
小コ一イチ人ニンでデんンまマうウとト志シんンどドうウあアくク由ユ之シのノつツまマ戸ト
ひヒくク書カキうウとトうウ小コ一イチ人ニンまマきキらラがガ流ナガレしシ志シはハ合カク神テイ此コノ
流ナガレとトうウんンじジまマいイ志シんンおオうウごゴのノうウをヲけケとトやヤ加カへヘ

給タマフひヒきキんン勅チヨク使シ勘カン由ユ由ユ長チヤウ官カン云クニ時トキ也ナリ形カタルシク書シテとトひヒくクきキてテ契ケイおオ小コ
忽トキニ小コるルいイゆユしシ給タマフひヒくクりリ毛モウとトやヤまマのノまマうウ一イチ人ニンやヤ
昔ハカシ固コ乃ノ武ブ王ワウやヤまマひヒ小コ一イチ人ニン那ナてテりリしシ給タマフりリんンとトせセ
時トキ志シうウこコうウ一イチ人ニン天テンよヨ初ハジメてテ命メイ小コ一イチ人ニンらラんンとト志シ給タマフ
まマうウけケ武ブ王ワウ乃ノやヤまマひヒ忽トキニ小コいイえエてテまマ下ゲをヲるル此コノ地チ
小コ一イチ人ニンこコるル小コ一イチ人ニンおオおオらラとト智チ海ウミとトかカんンせセぬヌ者モノとト
なナらラりリをヲれレ又マタかカこコりリはハ若ニギハヤヒ野ノ方カタとトひヒくク人ニンのノ
りリてテやヤりリこコのノ事コト一イチ人ニンのノひヒそソ神テイのノ礼レイとトうウけケ
とト正テイ盛セイ乃ノうウらラるル包ホウとトらラんンとト歎ホツとト何ナニゆユ人ニンあアらラ
うウうウこコのノ偽イツカリとトうウきキんン只イツカリ打イツカリ若ニギハヤヒよくヨク志シ合カクらラれレあアらラ

新書也とわがびく人もおかしきり

五波新書系合トキコリトシテイリの幸致ユキイタスラシキ務ツカサツ交付書シノカク下車事ノリノコリ

同九月三日ハ故伏見コトシ池田イシノ宗目ムネメありあけぬ池

佛事ポト文右オサノ池乃イシノ池イシノせさセさサまマてテとりリをヲこコさサ

りせ結ツりリんン為メよヨ物モノ助タ上ノ宣ノ伏シ見ミ後ノへヘ池イシノ幸カサるルり

びビ里リさサうウいイさサうウ色イロ志シろロうウんンとトうウざザ里リさサ

十トウ由ユ怪クワイ石イシとトあア月ツキめメてテ見ミ所トコロありリしシせセいイちチらラれレたタ

さサうウ志シ也ヤ去キ座ザ年ネン久ク歳サイわワ妻ツメはハ忍ニ了リョウめメえエあアすス

蕙ヱとト一イチ村ムラとトさサきキ乃ノ野ノとト威イとトうウ月ツキらラのノ産ウツ之シ露ツユ

まマげゲくクハハまマじジらラるルのノ門カドとトらラてテをヲざザ吹フキすス

ひヒのノさサとトのノ風カゼ若ワカきキりリのノ子コ板イタ間マ乃ノ日ヒ昔ムカシ此ココ秋アキと

思オモひヒ也ヤくクりリまマのノ海ウミとトぞゾりリのノがガしシきキらラ物モノしシくク小

うウまマへヘとトひヒさサうウのノとトそソふフ林ハヤシ乃ノ氣キ文キ光クワ陰イン人ヒトと

まマさサとト志シ常ジョウ志シんンそソくクらラりリ理コトバりリ考カウさサをヲ賦イタシさサもモ得トク

いイめメ人ヒトよヨ歳サイわワらラあアらラれレとト我ワ毎ツネ師シ梅ウメらラみミ比ヒるルん

世セ月ツキとトうウりリてテ教ス割コト意イ説セツしシ終ハヤシ人ヒトとト上ウヘ宣ノとトうウめ

まマりリさサうウ志シんン老ラウ儒ニウしシりリくクをヲ成ナシしシそソくクたタいイの

袖スベテとトあア不フ子シ計ケイすスそソ思オモいイありリらラ積ツクくク比ヒ池イシノ區ク善ゼン

揚ハダシめメ初ハジメくクあアくク秋アキ乃ノ目メ程ハジメさサくク蓄シとトてテねネあアとトまマじジ

るル一イチ九ク月ツキ初ハジメ三サン乃ノ秋アキ乃ノ目メ出デりリ雲クモ間マ小コうウげゲさサうウて

こまう小落るかり乃一急伏見の小田を捕まじ
くうまうの人北ゆふべとうごきま川まうり
めを成あうけふらま川ととりて遷内るう教ハ
う一を源さう小田車東洞院とのかり小糸色
とるさうせ給ふかりあよ出波源正か湖新を二階
堂下野判官新善今ひえのる湯ゆく益うけ射と
あむのり大滴よ時刻とうう一乞を教うけと改
きりがう一あうくひらら東のとうぬん北は小
て由幸小ぞ糸合きう百次由う記よまう里あて
何者ぞらうせさ也かりひくとぞせめきう下野

判官新善ハ乞とやて由幸さうりきりとゆゆ
らり飛掛りうこりう小川こまう出波源正か
湖新をハ由幸えあうゆりきうまうやばは時刻と改
て世とを教それまのまう小あうまひきをま
るとうけとあてはは源中少く新善うととあ
とるさう者ハあうけぬまのとりふいりまうら
者ぞ一く小田川まうひき目あふせくられま
のくまうりけまはせんを由源正か湖新を二階
小りまうら田舎乃人亦まうか極よらうせ記と改
ふるまうふぞ院乃由幸まてあそとあまうりき

むらさきさきいさやうの氣やはさうきん毛とて
ゆりくくと打とひるふ流とりふりたとりふ
りたあけけ村て母とさんとりふまけ小車と
其中一丸勢てるとけよせてをふ物村よそ
村うりけき竹林院乃中納言公ま心内候よう
まをりう漆府の右口とぬきませあけん深ま
き粉粉しそるけま車ととくけ取がりて仕
まと下知せしまきりた半のひまけさうま
首本えおまうーまも毛おふるり約供
草乃心お雲もみお打落されて車ふあい
あ

矢とふふせぎまのうとら人もあー下まこれ
皆うみぐり落されまそのやまかとおま小ま
む車ハ坊頼まらんたうすあさ浦とりふも
とろそり也上堂ハ只お着のふちしおまーぬし
て何とも思ふらうらう方えなうりまんと竹林
院中納言公ま心内およまられありまれた上堂
りふ公ましくけりて取うく内候まそむむお
まけつ公ま心もまむむあまをぬさへては
此乃中納言の髪をんいひまらよ上てま礼にお
毛旭小乃寸ハ然た日月のうこ天よめくらけ

サリクン何乃うさひうはるさと藝せしき
と上宣りく教道とさくさうめさせおしーま
さまれそ事ーよやいふふ糸の天神を成おと
字て對面より母り成章の乃よりこまり字佐
八幡の物使のなしく小威儀とひはくろひて
物答とりさうくとしとさげさくそ成たの至れ
の代とりふうう小切らうせきとまればあさり
見つる事よ今い未代就愚の摺信まで清獲れ
神もまーまのさわうくしそ覚ゆまくと伝おされく
うんえの成袖と伝うが小をーめてさせおしー

ゆせけふま心え海の中よ切さられて半日さ
かこ物判してさくく還成るりよかりそはさ
並義の片善成心の政勢小うりりく下しきん
るいとしり給ひあうけい変と傳取て吳納小も
未び教とさうすまうて中納よをひくあう門く
耳同ゆえあますあーさ也そ罷と端とらん小之懸
小をさるひくを程うすお刑よ下あてさるん
ぞあらん並小枝とをさう成めー判して車され
よやせらんあくひあかよやとるさくと大小さう
うんりされたり新巻を新巻をかくて為事

うりるんと思をまはは皆をのまが中園へぞめげ
下をうべう人いとて辱うと討ま成う下し
治せらるへき評定一きつあうりきねて下野判
友はうなりいと思をんらびひとのへてよ流し
やがらなき由成務に陳じりきり同更に次才務
よれぬまで新書とけ魁のりろさふよて死罷成
るさめられ撥成園へそ流されたり出成朝をい
りめく罷科のがあふ所るうりきまは長洪園小
うそ終てびりん成せうんとお儀ちくむんさ
乃知者一ぞくたをまのさきよすうとやとあうは

イシキラツテ
忠討手とさう下し西治せうあるうとて先をひ
乃刑尸大捕より成をと始とあくひのこの一様
たよの書とさう下されあうは朝をびりんえ
奉下ゆう寸角ていりくと思案とくむそらよ朝
へ上りびさう園師とを朝をうびさういひは天
下の大善知識あくとお家家そりあううらひま
うりあうはさうりたと朝あ成りまあうた丸成湯
乃りく是箱の大送とゆらくさうをうし向はれ
横摺うらるう然成は入りくしうをねん力
あくそがとけ保せうきて子孫のわんどと全す

うりとしてさらきまのつとせとまじりけりたると
るか^{イナカド}園令人とをこまじりとすく^{ノモリシ}柗院小ぶふるより
ゆりじよけ^{ツチ}均軍小来あひてあま^{ツチ}とまふるさう
とわさびききんさまは^{アサ}おしき事^{アサ}た浅ま
き甲あまおがしりきり^{アサ}富小りるる雲客^{アサ}までり
まきん^{アサ}屋ぶれ^{アサ}うらま^{アサ}れより^{アサ}見ま^{アサ}た年^{アサ}四十余
也^{アサ}うら^{アサ}うま^{アサ}由^{アサ}倦り^{アサ}の^{アサ}付^{アサ}て^{アサ}立^{アサ}点^{アサ}や^{アサ}行^{アサ}く^{アサ}ま
ま^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}人^{アサ}の^{アサ}あ^{アサ}ぐ^{アサ}え^{アサ}ま^{アサ}げ^{アサ}ま^{アサ}ら^{アサ}屋^{アサ}れ^{アサ}車^{アサ}と^{アサ}う^{アサ}て^{アサ}と^{アサ}を
ゆ^{アサ}ら^{アサ}ぬ^{アサ}は^{アサ}る^{アサ}ま^{アサ}半^{アサ}よ^{アサ}う^{アサ}け^{アサ}て^{アサ}水^{アサ}野^{アサ}乃^{アサ}方^{アサ}へ^{アサ}そ^{アサ}通^{アサ}き^{アサ}り
今^{アサ}注^{アサ}海^{アサ}中^{アサ}に^{アサ}た^{アサ}民^{アサ}士^{アサ}を^{アサ}充^{アサ}満^{アサ}さ^{アサ}く^{アサ}時^{アサ}と^{アサ}ゆ^{アサ}か^{アサ}人^{アサ}を^{アサ}救^{アサ}

を^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}す^{アサ}と^{アサ}誰^{アサ}と^{アサ}は^{アサ}思^{アサ}は^{アサ}る^{アサ}ま^{アサ}や^{アサ}と^{アサ}く^{アサ}く^{アサ}海^{アサ}あ^{アサ}る^{アサ}馬^{アサ}を
小^{アサ}田^{アサ}く^{アサ}の^{アサ}う^{アサ}ら^{アサ}と^{アサ}並^{アサ}て^{アサ}ゆ^{アサ}ら^{アサ}ゆ^{アサ}ら^{アサ}小^{アサ}毛^{アサ}ら^{アサ}の^{アサ}記^{アサ}久^{アサ}く
乃^{アサ}小^{アサ}袖^{アサ}ぬ^{アサ}ま^{アサ}さ^{アサ}げ^{アサ}く^{アサ}滴^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}う^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}ま^{アサ}珠^{アサ}し^{アサ}う^{アサ}ら^{アサ}紅^{アサ}
兼^{アサ}の^{アサ}枝^{アサ}ま^{アサ}し^{アサ}と^{アサ}小^{アサ}折^{アサ}か^{アサ}さ^{アサ}ら^{アサ}う^{アサ}ら^{アサ}う^{アサ}ま^{アサ}が^{アサ}里^{アサ}に^{アサ}雜^{アサ}談^{アサ}
あ^{アサ}く^{アサ}る^{アサ}上^{アサ}二^{アサ}三^{アサ}十^{アサ}騎^{アサ}大^{アサ}肉^{アサ}野^{アサ}乃^{アサ}芝^{アサ}生^{アサ}の^{アサ}花^{アサ}露^{アサ}と^{アサ}友^{アサ}と
け^{アサ}ら^{アサ}ら^{アサ}り^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}り^{アサ}と^{アサ}ま^{アサ}ま^{アサ}ひ^{アサ}と^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}ま^{アサ}せ^{アサ}ら^{アサ}り^{アサ}自^{アサ}
人^{アサ}と^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}り^{アサ}ま^{アサ}る^{アサ}上^{アサ}の^{アサ}考^{アサ}比^{アサ}車^{アサ}然^{アサ}見^{アサ}付^{アサ}く^{アサ}す^{アサ}と^{アサ}や^{アサ}花^{アサ}
し^{アサ}を^{アサ}伴^{アサ}乃^{アサ}泥^{アサ}と^{アサ}り^{アサ}ふ^{アサ}く^{アサ}せ^{アサ}ま^{アサ}の^{アサ}ま^{アサ}ね^{アサ}を^{アサ}ら^{アサ}と^{アサ}う^{アサ}ふ^{アサ}も
あ^{アサ}ら^{アサ}な^{アサ}を^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}ま^{アサ}る^{アサ}者^{アサ}よ^{アサ}の^{アサ}り^{アサ}あ^{アサ}ひ^{アサ}ま^{アサ}て^{アサ}ま^{アサ}や^{アサ}う^{アサ}ぐ^{アサ}いと
う^{アサ}ら^{アサ}あ^{アサ}ら^{アサ}ま^{アサ}り^{アサ}て^{アサ}親^{アサ}未^{アサ}極^{アサ}乃^{アサ}名^{アサ}い^{アサ}ふ^{アサ}と^{アサ}や^{アサ}ら^{アサ}め^{アサ}られ

